

株主通信

第4期決算号

平成18年3月1日～平成19年2月28日

株式会社 三越
証券コード：2779

MITSUBUKOSHI

【三越企業理念】

社会的貢献と企業の繁栄

伝統を越える革新性

まごころと創意工夫

飾る日も
飾らない日も
三越と

人生で一度の特別な日も、ささやかな日常の一日も、
一人ひとりに、喜びに満ちた時間が舞いおりますように。
私たち三越は、華ひらくゆたかさを、明日を包みます。

CONTENTS

企業理念／コーポレートメッセージ	1
株主のみなさまへ	2
三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画	3
ビジネス トピックス	6
ビジネス ニュース	7
お客さまとの信頼関係	9
連結決算ハイライト	11
事業別セグメントの概況	12
連結決算の状況	13
単体決算の状況	15
会社の概況／株式の状況	16
株主様優待制度のご案内	17

株主のみなさまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループ第4期（平成18年3月1日から平成19年2月28日まで）の事業概況をご報告申し上げます。

百貨店業界においては、人口減少や所得の二極化、個人消費の多様化、加速する業態再編の動きや業態を越えた競争への対応が求められるなど、厳しい局面が続いています。

このような状況のもと当社グループは、当年度を中期5ヵ年計画の仕上げの年度と位置づけ、高い収益力の確保と安定的な財務基盤の構築に向けて、グループ全体で収益力向上、コスト削減、成長事業の推進に取り組みつつ、関連事業の見直しなど、事業の効率化を図ってまいりました。

平成19年度から、新しい経営計画「三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画」をスタートし、当社グループの中核を担う百貨店事業を中心に、顧客満足度を上げる施策による収益拡大、各店舗の粗利益率の向上、販売管理費の削減等に全社を挙げて取り組み、平成19年度の利益計画の目標値達成を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、格別のご理解を賜り、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

石塚 邦雄
Kunio Ishizuka

VISION

「上質な暮らしを求める大人」の
ゆたかなときを創造することにより
最もブランド価値の高い企業を目指す。

三越ブランドのキーワード

●ネットワーク ●文化と感性 ●信頼とチャレンジ

=おもてなしNo.1 こちよさ日本一百貨店

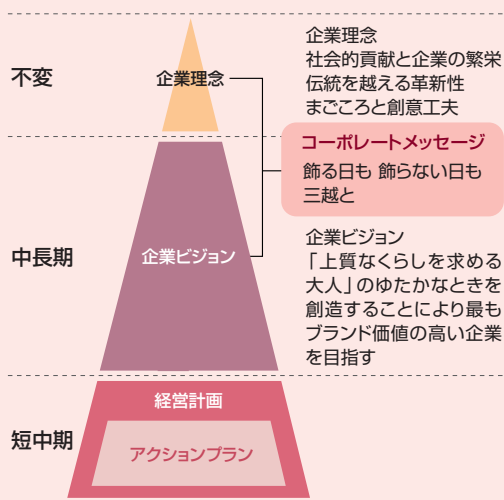
三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画

当社は平成19年度から24年度までの経営計画「三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画」を策定いたしました。本計画では、人口構造の変化、中心市街地の弱体化、個人所得の二極化、消費行動のモノからコトへのシフト、競合の多様化などの環境変化を踏まえ、内部リソースの強みを再認識しポジショニングを明確にすることで、三越のブランドをさらに磨き上げ、株主のみならずお客さまをはじめとするさまざまなステークホルダーに対してより高い価値提供と持続的な信頼関係構築を図ることを基本的な方針としています。

企業理念体系

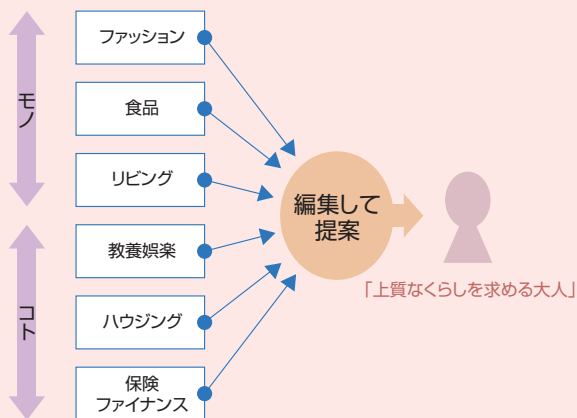
当社はお客さまや社会に対する常に変わらぬ姿勢として企業理念を定めています。

企業理念を受けて、6ヵ年計画における目指す姿として企業ビジョンを定め、社内外への約束としてコーポレートメッセージを定めています。



ターゲットと目指すビジネスモデル

本計画において、当社はターゲットを「上質な暮らしを求める大人」、イメージターゲットを当社の定義する富裕層と定め、そのライフスタイル・価値観等を研究し、ご支持いただける店づくり、品揃えを行ってまいります。また、お客さまとの接点の拡大並びにお客さまのニーズ・ウォンツに応じて有形無形に関わらず商品・サービスを提供する「ワンストップ・オンデマンド」のビジネスモデルを構築してまいります。



変革を実現するチャレンジ“5”とは

【これまでの取組み】



【変革を実現するチャレンジ“5”】

チャレンジ 1
ターゲットを定めて顧客満足を最大化する戦略

チャレンジ 2
収益率の向上戦略

チャレンジ 3
競争優位を実現する店舗戦略

チャレンジ 4
百貨店事業以外の成長戦略

チャレンジ 5
働くモチベーション
向上戦略

チャレンジ 1

**ターゲットを定めて顧客満足
を最大化する戦略**

魅力ある商品・サービスを提供し、お客さまとの関係を深め、生涯を通じて永続して三越をご愛顧いただけるお客さまを拡大してまいります。

チャレンジ 2

収益率の向上戦略

粗利益率の向上と販売管理費の削減を継続して行うと共に、事業毎の収益性を明確化し、商売の構造を抜本的に見直すことで各事業の収益率を高めます。

【店舗事業の粗利益率向上】

重点売場を中心としたセントラルコントロールを拡大いたします。

お客さまのご要望を越える提供価値の充実、時代の変化に対応し、かつ当社のアイデンティティを打ち出し他社との差異化を図る「重点売場」・「重点ゾーン」の構築、お客さまの買上動向を把握し、活用するためのカード戦略の見直し、お客さまへの提供価値における他企業とのアライアンスを進めてまいります。

重点仕入先を選定し、取引を拡大してまいります。
定番品や実用品に競争入札を拡大いたします。

【販売管理費の削減】

物流改革・購買改革を継続するほか、宣伝媒体、用度品なども見積み合わせを行い、販売管理費を削減いたします。
シェアードサービスを拡大し、後方人員を削減いたします。
賃料増加抑制の交渉、外部賃借物件の削減を行います。

三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画

チャレンジ 3	競争優位を実現する店舗戦略
----------------	----------------------

店舗各々の特性や、今後の人口動態など市場のポテンシャル等を踏まえ、店舗のグルーピングを行い、グループに応じた戦略を展開いたします。

【フラッグシップ型店舗】 → 日本橋本店、銀座店など

上位顧客に見合ったサービス・施設を完備し、商圏内の他の店舗と地域内ネットワークを構築し、競争優位を実現します。

チャレンジ 4	百貨店事業以外の成長戦略
----------------	---------------------

百貨店の枠にとらわれることなく成長性の高い分野において、新たな柱となる事業を構築していくことを目指します。

【ダイレクト事業】

eコマースを加え、複合的なメディアショッピング事業へ転換し、通販事業会社として専業と戦っていけるビジネスモデルを

チャレンジ 5	働くモチベーション向上戦略
----------------	----------------------

有能な人材採用と社内人材力のリソース維持の観点から、評価制度を見直し、権限と責任を明確化してまいります。

お客さまとの信頼関係を深めていく販売のプロ、マーチャンダイジングのプロ、マネジメントのプロ等、自ら専門度を高め、お客さまに高い価値を提供できるプロフェッショナル人材のキ

買収防衛策導入について

当社の企業価値の源泉は、創業以来、長年に亘る企業活動により構築された「三越」のブランド価値にあり、そのブランド価値は、株主のみならず、お客さま、従業員、お取引先さま等と持続的な信頼関係を構築していくことにより、維持、醸成されていくものと考えています。「三越 ブランド ルネサンス 6ヵ年計画」を着実に実行していくことで、「三越」というブランド価値を磨き上げ、さらに企業価値・株主共同の利益の向上を目指してまいります。

国内有数の商業地域に立地する日本橋本店、新・銀座店、新・大阪店への重点投資を実施いたします。

【地域密着型店舗】 → 高松店、新潟店など

三越のブランド力と地域に根ざした独自性をバランスよく発揮する戦略を推進します。

【郊外型店舗】 → 武蔵村山店など

フラッグシップ型店舗の商圏に出店し、お客さまとの接点を拡大いたします。

構築いたします。

今後とも百貨店eビジネスNo.1を持続するため、店舗事業商品のeコマースへの展開を拡大いたします。

【デベロッパー事業】

「三越」を名乗らない店舗についてはデベロッパー事業として資産価値の向上と安定的収益を確保するビジネスモデルを構築すると同時に、外部商業施設のプロパティマネジメント事業を拡大してまいります。

キャリアプランを明確にし、人材育成を促進してまいります。

有期・無期雇用者の均衡処遇の社会的要請を踏まえ、有期雇用の処遇体系を整備いたします。

職務行動評価制度を導入し、職務によって求められる人物像を明確にいたします。

自部門だけでなく、グループ全体への貢献などにチャレンジする行動を評価するしくみを検討いたします。

当社は、当社の企業価値の源泉を理解せず、企業価値・株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすような株式の大量買付等に対して、必要かつ相当な対抗をすることを基本方針としております。この基本方針に照らして、当社は平成19年2月15日の取締役会において「当社株式の大量取得行為に関する対応策」の導入を決議し、平成19年5月22日開催の定時株主総会にて、株主のみならずからご承認を条件に発効いたします。詳しい内容につきましては、当社のホームページの「ニュースリリース」をご覧ください。

「三越 ブランドルネサンス 6ヵ年計画」の基盤となる 新・三越モデル／重点売場について

すべての業務を「お客さま視点」でリセットし、三越のブランド力の向上・企業価値向上を目指して「新・三越モデル」を推進しています。2006年度には、三つの価値、「MD品揃え」「空間ビジュアル」「接客・CRM」を磨き上げ、要員体制、組織・職制、人事評価制度の方向性、業務・システムの整備および効率化などのインフラ整備も進めてまいりました。

顧客満足度調査の結果、シニア層女性の支持は全力テグリーにおいて満足度に関しては平均を上回り、また、接客サービス項目にも若干の改善がみられました。一方、40代50代・高所得者層の満足度、品揃え項目についてはまだまだ改善の途中となっています。結果（表）やお客さまから頂戴したご意見をもとに、優先順位をつけ具体的な改善に取り組んでいます。

また、「空間ビジュアル」に関しては三越が独自に策定した「ビジュアルスタンダード」の徹底を図りつつ客観的な調査も継続的に実施してまいりました。その結果、各店の改装に一定の成果が表れています。今後は店舗間格差の解消、商品政策とビジュアルの一層の連動を課題として、改善計画立案と、そのスケジュール確認を行ってまいります。

これらを踏まえながら、売場づくりにおいては、主体性・標準化・効率化を先行させ、重点的に推進する「重点売場」を核にしてゾーニングを進め、独自性・魅力・収益性の実現に向けて取り組んでまいります。



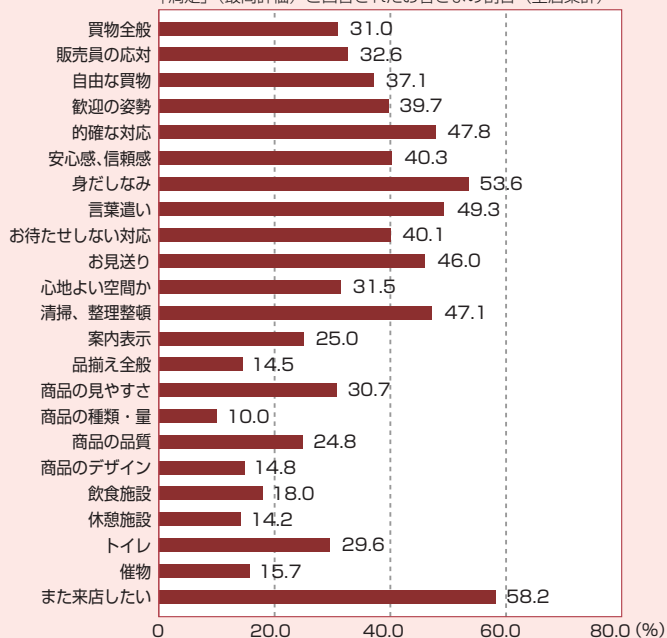
フロアの核となる重点売場のNYRW NEXT（ニューヨークランウェイネクスト）松山店



ゆったりとした通路、落ち着いたイメージに変わった宝飾品売場 銀座店

表 顧客満足度調査結果の一例

「満足」（最高評価）と回答されたお客さまの割合（全店集計）



変革を実現するチャレンジ=郊外型店舗 —ショッピングセンター内への出店—

都心部の限られた立地にとらわれずに成長を続けていくため、郊外型店舗が百貨店事業に続く次世代型事業として、成長戦略となりえるようチャレンジを進めています。

郊外におけるショッピングセンター内に新規事業態として、デパ地下に代表される食品や毎日の食卓を飾るデイリーフードゾーンを中心にファッションや雑貨を取り扱う新店を出店。ローコストオペレーション体制の構築や運営を促進し、フラッグシップ型店舗を中心にしたネットワークの形成を目指しています。

これらの店舗は従来の三越主要顧客層である団塊の世代に加えて、ショッピングセンターのメインターゲットであるニューファミリー層（団塊Jr世代）を開拓・取り入れることにより、女性中心客層から家族（ファミリー）層を中心とした時間消費型のライフスタイルへの対応を図っています。

『「Hand in Hand」～大切な人と一緒に』武蔵村山店、名取店のコンセプトです。「買う」ための百貨店から「過ごす」百貨店を目指しています。

高い天井や広い通路幅の確保、ベビーカーでゆったり入れる広い休憩室、多目的化粧室の設置、またお子さま連れのお客さまからご家族のみなさまで快適に使っていただけるレストスペースなどにより、過ごしやすさを確保いたしました。

商品面ではレディスファッションの他、子供やメンズ商材などペアリング商品を編集した売場やフロア、および生活地域密着型としての食品を1階フロアに配置して、毎日の食卓に役立つ食材提供を行っています。

これらにより、大切なパートナーと「日常の上質な時間を共有」する場の提供を進めています。

三越武蔵村山店



東京都武蔵村山市榎1-1-3

SCの3階から見た三越



3階の入口



1階・2階の三越

三越名取店



名取店の外観

宮城県名取市増田字関下460



ゆったりとしたレストスペース

三越美術部100年の歴史

- 1904年 ●三越「デパートメントストア宣言」をし、近代百貨店としてスタート
 1907年 ●「新美術部」大阪店(9月15日)、日本橋店(12月1日)誕生
 ●東西日本画の半折(136×35センチ)を集め、第1回「日本画半折会」を開催
 1914年 ●ルネッサンス式本館新館完成
 ●第1回再興院展を開催 横山大観「游刃有余地」 下村観山「白狐」を出品
 1915年 ●第2回「二科展」開催(翌年3回展も開催)
 1917年 ●第1回「金鈴社日本画展」開催(第2回展、7回展も開催)
 1923年 ●「千家十職茶器陳列会」開催(大阪店)
 1924年 ●第1回「淡文会展」開催(1935年まで全9回)
 1927年 ●新進気鋭の工芸作家による「无型展」開催
 1929年 ●「藤田嗣治展」開催
 1930年 ●第1回「七絃会展」開催(1942年まで全13回)
 ●濱田庄司 大阪店にて初個展開催
 1932年 ●第1回「六潮会展」開催(10周年記念展(最終回)まで開催)
 1933年 ●第1回「春の青龍展」開催
 1942年 ●「藤島武二」作品鑑賞会開催
 1945年 ●第2次世界大戦終結。三越営業再開
 ●「日本美術院小品展」開催。その後、春の院展となり2005年に62回を数えた
 1947年 ●「小倉遊亀」初個展を開催
 1948年 ●戦後初の企画展「彩交会日本画展」開催(1970年まで全23回)
 1951年 ●猪熊弦一郎デザインによる新包装紙「華ひらく」が誕生
 1952年 ●祝寿70年記念「小林古径展」開催
 1953年 ●第1回「薫風会展」開催(1963年まで全11回)
 1954年 ●株式会社三越創立50周年記念「横山大観日本画展」
 1960年 ●株式会社50周年記念事業として佐藤玄々「天女像」制作
 1962年 ●第1回「国際形象展」開催(大阪店)(2回目以降本店でも開催)
 1965年 ●平山郁夫・三越にて初個展を開催
 1974年 ●三岸節子「花とヴェネチア展」開催
 1983年 ●第1回「宮本三郎記念賞受賞記念展」開催
 1989年 ●百寿記念「奥村土牛展」開催
 1992年 ●パリ三越エトワール開館 オープン記念展として
 「日本の陶芸「今」100選展」開催
 1996年 ●「高山辰雄展」開催
 2001年 ●第1回「七峻会展」開催(2006年まで全6回)
 2002年 ●「人間国宝14代酒井田柿右衛門展」開催
 2003年 ●加山又造「か・た・ち展」開催
 2004年 ●白寿記念「片岡球子展」開催
 2005年 ●平成の洛中洛外「平山郁夫展」開催
 ●社団法人企業メセナ協議会主催「メセナアワード2005」
 メセナ大賞受賞
 2007年 ●パリ三越エトワールにて日本画「今」院展開催
 ●美術部創部100年

本物の美しさを求めて一世紀、
その潮流を未来へと



三越美術部は、2007年創部より百年を迎えました。百貨店として初めて美術部を創設し今日まで、横山大観、藤島武二、濱田庄司といった時代を代表する巨匠から、未来を担う若手作家まで様々な展覧会を開催して参りました。創部当初には、日本画半折会を開催。本展は、日本画を床の間に飾りやすく表装した半折(136×35センチ)のサイズで展示販売したものでした。当時、一部の人々に限定された美術鑑賞を広く一般に紹介する画期的な展覧会として高い評価を受けたのです。その理念を継承し、その後、第1回再興院展、第1回日本伝統工芸展、藤田嗣治帰国凱旋展、板谷波山の生涯二度の個展等、美術界の歴史に残る数々の展覧会が三越を舞台に開催され、長年の文化貢献が評価され2005年にはメセナ大賞を受賞いたしました。そして、2007年、創部100年を記念して日仏文化交流空間・パリ三越エトワールでの美術展を再開し、その柿落としとして平山郁夫氏が理事長を務める日本美術院による日本画「今」院展を開催。日本だけでなく世界へと美術部の文化発信の場は広がっています。



パリ三越エトワール



2007年4月25日より開催した日本画「今」院展のポスター

商品の安全とクォリティの確保のために

お客さまに安全良品を提供するしくみとして、日々の業務の中に組み込まれている仕事が10種類あります。それは(1)全店検品制度、(2)食品衛生顧問制度、(3)食品衛生管理者制度、(4)適正計量管理主任制度、(5)品質管理に関する通信講座、(6)食品衛生管理者通信講座、(7)QCメモ(不適品記録メモ)、(8)自店定期点検、(9)適正表示点検、(10)品質向上専門部会(各店会議)です。これは、それぞれ法令に基づき三越の品質管理担当が独自に設定をしてきた制度です。

例えば全店検品制度は月2回、各店一斉で、開店前に実施します。

品質・原産国・賞味期限などの表示に関して問題のあった商品、汚れ・破れ・解れ・割れ・ネジのゆるみなど商品本体の外観に問題があった商品、品質表示下げ札なし・プライスカードなし・電池切れ・賞味期限切れ間近の商品など、事前点検を行います。2006年度下半期では4,512点の問題点を



衣料品の点検は1点ずつ確実に進めます。



点検、チェック内容を確認しながら進めます。



小さいものも丁寧に確実に点検します。

発見し、店頭から引き下げました。これらの検品結果を基に他の店舗での確認を実施すると共に、各お取組先へ改善要請を行い、適品を提供するよう努めています。開店前の地味な仕事ではありますが、継続していくことが大切です。

つぎにQCメモ(不適品記録メモ)をご紹介します。全店検品制度の実施をはじめ日々の検品を行いながらも、残念ながらやはり不適品の発見やお客さまからの品質苦情を頂戴することがあります。こうした場合はこの情報をQCメモの形式で記録を残します。これら不適商品情報を社内で共有し新たな品質問題が発生することを防ぐと共に、他の店舗への広がり防止しています。

2006年度下半期では、全店で3,067件のQCメモが作成されました。繊維製品、雑貨類ではキズ・変色・汚れなどの外観的な問題、肌に合わない・上手く動かない等の機能的な問題、食品類では賞味期限切れ間近・変質・異物混入または混入の疑い等のご指摘がお客さまから寄せられました。これらの声を基に、問題の拡大を防いでいます。

お客さまにお届けする商品の品質と安全の確保は、一度に完成するものではありません。売場での毎日の地道な検品や巡回作業、お客さまからの貴重なご意見を反映しながら、それぞれのお取引先から充分理解を頂戴し、「安全」な商品をお客さまに提供し、お客さまから「信頼」をいただけるよう努めています。

CSRへの取り組み

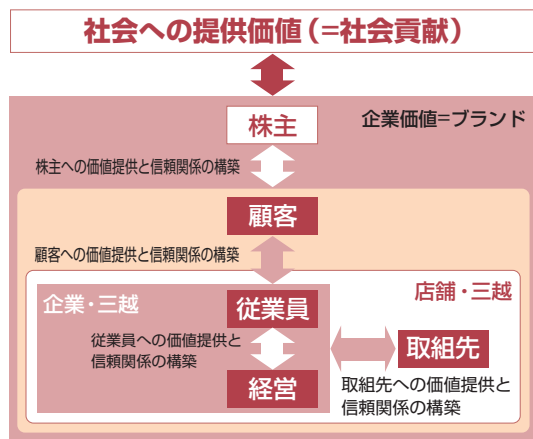
「社会のお役にたつ」ということが使命です。

三越の社会的責任は、お客さま、株主のみならず、お取引先さま、従業員などのさまざまなステークホルダーに対して、価値を提供し信頼関係をより高め、社会に貢献をしていく、すなわち社会のお役にたっていくことにあります。

この前提をもとに三つの企業理念、「社会的貢献と企業の繁栄」「伝統を越える革新性」「まごころと創意工夫」をもとに企業が社会からより高く評価されることを目指して、事業を進めています。CSR（企業の社会的責任）という言葉は比較的新しい言葉ですが、その源流は約100年前の百貨店宣言までさかのぼり、社内における認知度は高まっています。

●ステークホルダーとの信頼関係の構築

さまざまなステークホルダーに対して価値提供を行い、信頼関係を構築していきます。



※ステークホルダー:企業を取り巻くあらゆる利害関係者のこと。

「三越レポート2007」を発刊いたします。

昨年9月に「三越CSRレポート2006」をはじめCSRレポートとして発刊しました。従来9月に発刊していましたが、今レポートは事業年度との乖離をできるだけ解消するため約2ヵ月早目の発刊を予定しています。また2005年度まで制作していましたが「会社案内」の内容を吸収してまいります。名称は「三越レポート2007」として、この一冊で三越の全体像がある程度理解できるようにCSRの観点を基本に構成しています。

(「三越レポート2007」をご希望の方に進呈いたします。お申込は8月以降となります。なお、数に限りがございますのでお渡しできない場合もありますことをあらかじめご了承ください。)



昨年度の「三越CSRレポート2006」

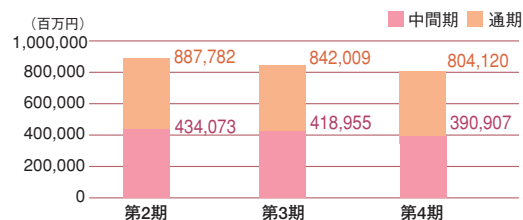
申込先 株式会社 三越 コーポレート推進室CSR担当
住所 〒103-8001 東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号
電話 03-3274-8060
Fax 03-3270-8684
E-mail info@mitsukoshi.co.jp

※三越のホームページ、企業活動からもお申込いただけます。

連結決算ハイライト

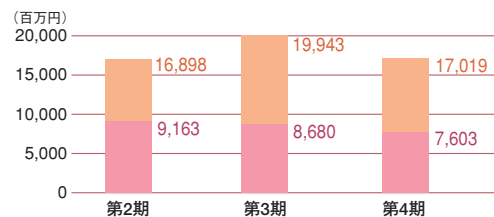
連結売上高

三越単体において、武蔵村山店・名取店のオープンなど増収要因がありましたが、吉祥寺店などの店舗閉鎖、日本橋本店地下バリアフリー工事、ブランド価値を損ねるバーゲンセール中止などの影響により、前期比較378億8千9百万円減（4.5%減）となりました。なお、単体の既存店ベースの前期比では0.9%減と若干のマイナスとなりました。



連結経常利益

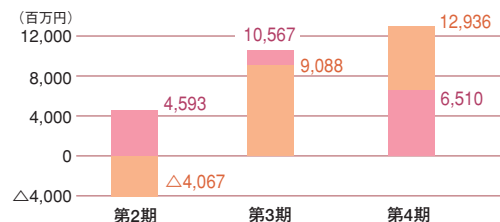
有利子負債の削減による支払利息の減少等もあり、営業外費用は前年に比べ1億7千万円の減少となりました。反面、持分法投資利益が前年に比べ6億1千万円減少し、営業外収益は4億3千9百万円減少しました。結果として、営業利益の前期比較26億5千4百万円の減少もあり、経常利益は170億1千9百万円と前年に比べ29億2千4百万円減（14.7%減）となりました。



連結当期純利益

物流施設の売却等により、特別利益として172億3千万円、減損損失の計上や物流構造改革に伴う早期退職措置等により、特別損失として207億5千6百万円を計上いたしました。

その結果、当期純利益は129億3千6百万円と前期比較38億4千8百万円増（42.3%増）となりました。



連結	単位	H17年2月期		H18年2月期		H19年2月期	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
売上高	(百万円)	434,073	887,782	418,955	842,009	390,907	804,120
営業利益	(百万円)	7,403	15,214	7,194	15,272	6,394	12,617
経常利益	(百万円)	9,163	16,898	8,680	19,943	7,603	17,019
当期(中間)純利益(△損失)	(百万円)	4,593	△4,067	10,567	9,088	6,510	12,936
純資産	(百万円)	137,186	129,025	139,537	140,018	154,212	162,840
自己資本比率	(%)	22.1	20.3	22.7	23.4	26.7	28.1
ROE(自己資本当期(中間)純利益率)	(%)	6.8	△3.1	15.7	6.8	8.8	8.6
総資産	(百万円)	621,783	636,879	614,133	597,349	576,838	577,672

事業別セグメントの概況

百貨店業

平成17年度に引き続き、「新・三越モデル」の基盤整備を中心にお客さまに対する提供価値の磨き上げに努めてまいりました。営業面では、銀座店、仙台店の改装を実施したほか、平成20年度の完成を目指して日本橋本店のバリアフリー工事と改装工事を進めております。また、3月に多摩センター店を改装、11月に高松市の中心市街地活性化のために地元と協同して開発した丸亀町商店街の若番街東館へ出店、さらに郊外型ショッピングセンターの核テナントとして、11月に東京都に武蔵村山店、2月に宮城県に名取店を新規に出店いたしました。コスト面では、平成17年度に引き続き物流体制の改革、後方業務の集約化、入札制の採用などによる購買改革を実施、一般管理費の削減を図りました。しかしながら、美術、宝飾品など高額品は堅調に推移したものの、ファッション部門の伸び悩みや、日本橋本店のバリアフリー工事による影響などもあり、売上高は7,662億2千6百万円（前期比94.9%）、営業利益は99億6千6百万円（前期比84.1%）となりました。

不動産管理業

3月に株式会社三越環境サービスを株式会社三越環境デザインに名称変更の上、株式会社三越の建築営業部門を同社へ移管しました。9月に株式会社三越環境デザインの施設管理部門を分割し、株式会社三越環境ビル管理として営業を開始いたしました。そのほか、保有資産の東京都東雲、塩浜の物流センターや国内の配送所の売却、名古屋ビルサービス株式会社と株式会社名古屋三越フードサービスとの合併、株式会社三越不動産の満濃ゴルフ倶楽部の事業分割・株式譲渡を行うなど、事業の選択と集中を図り、構造改革を進めました。

その結果、売上高は218億7千6百万円（前期比134.5%）、営業利益は15億9千6百万円（前期比69.3%）となりました。

その他事業

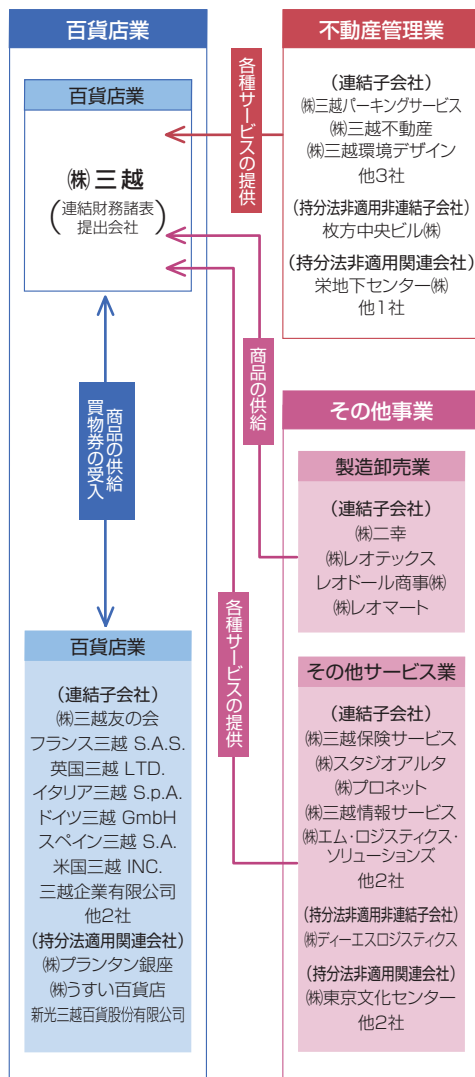
物流構造改革の一環として、3月に株式会社エム・ロジスティクス・ソリューションズを設立いたしました。以上の結果、売上高は160億1千7百万円（前期比85.7%）、営業利益は11億3千6百万円（前期比99.2%）となりました。

次期の見通し

今後の経済環境につきましては、景気は回復を維持するものの、個人消費は力強さを欠く状況が続き、百貨店業界を取り巻く環境も厳しい状況が続くと思われます。このような中で、平成19年度は経営計画「三越ブランドルネサンス6ヵ年計画」の初年度として、三越のブランドを磨き上げてまいります。次期の見通しといたしましては、売上高8,013億1千万円、経常利益177億4千万円、当期純利益106億6千万円を見込んでおります。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

● 三越グループの状況



連結決算の状況

会社法について

連結貸借対照表について

平成18年5月1日施行の会社法により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性をもつものを「資産の部」、負債性をもつものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

連結株主資本等変動計算書について

平成18年5月1日施行の会社法により、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、連結貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主のみなさまに帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、ご報告するために作成する計算書類です。

● 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 平成19年2月28日現在	前期 平成18年2月28日現在
資産の部		
流動資産	104,768	111,321
固定資産	472,903	486,027
有形固定資産	352,340	376,495
無形固定資産	9,001	9,459
投資その他の資産	111,562	100,073
資産合計	577,672	597,349
負債の部		
流動負債	216,455	238,787
固定負債	198,376	218,158
負債合計	414,831	456,945
少数株主持分		
少数株主持分	—	384
資本の部		
資本金	—	37,404
資本剰余金	—	41,899
利益剰余金	—	57,799
その他有価証券評価差額金	—	2,039
為替換算調整勘定	—	1,276
自己株式	—	△400
資本合計	—	140,018
負債、少数株主持分及び資本合計	—	597,349
純資産の部		
株主資本	148,078	—
資本金	37,404	—
資本剰余金	41,933	—
利益剰余金	69,257	—
自己株式	△515	—
評価・換算差額等	14,340	—
その他有価証券評価差額金	12,197	—
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	2,141	—
新株予約権	25	—
少数株主持分	395	—
純資産合計	162,840	—
負債純資産合計	577,672	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 連結株主資本等変動計算書(要旨) 当期(平成18年3月1日~平成19年2月28日)

(単位:百万円)

科目	株主資本					評価・換算 差額等合計	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計				
平成18年2月28日 残高	37,404	41,899	57,799	△400	136,702	3,316	—	384	140,403
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△1,478		△1,478				△1,478
当期純利益			12,936		12,936				12,936
自己株式の取得				△116	△116				△116
自己株式の処分		33		1	34				34
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						11,023	25	11	11,060
連結会計年度中の変動額合計	—	33	11,458	△115	11,376	11,023	25	11	22,436
平成19年2月28日 残高	37,404	41,933	69,257	△515	148,078	14,340	25	395	162,840

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成18年3月1日～ 平成19年2月28日	平成17年3月1日～ 平成18年2月28日
売上高	804,120	842,009
売上原価	585,467	611,800
売上総利益	218,652	230,208
販売費及び一般管理費	206,034	214,936
営業利益	12,617	15,272
営業外収益	11,851	12,290
営業外費用	7,449	7,619
経常利益	17,019	19,943
特別利益	17,230	13,303
特別損失	20,756	5,818
税金等調整前当期純利益	13,493	27,428
法人税、住民税及び事業税	1,331	1,097
過年度法人税等	—	320
法人税等調整額	△790	16,904
少数株主利益	15	17
当期純利益	12,936	9,088

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT | 連結貸借対照表

- ・総資産は5,776億7千2百万円と前期末に比べ196億7千7百万円減少しました。これは、現金及び預金の減少、物流施設の売却や減損処理などによる有形・無形固定資産等の減少によるものです。
- ・負債合計は4,148億3千1百万円と前期末に比べ421億1千4百万円減少しました。これは、物流施設売却や売上からのキャッシュインを借入金の返済に充て、主に長期借入金が増加したことによるものです。この結果、有利子負債は前期末の2,098億8千6百万円から385億1千4百万円削減し、1,713億7千1百万円と圧縮いたしました。
- ・純資産合計は1,628億4千万円と前期末に比べ228億2千1百万円増加しました。これは、利益剰余金の増加と台湾・新光三越の株式時価評価による、その他有価証券評価差額金の増加によるものです。

● 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成18年3月1日～ 平成19年2月28日	平成17年3月1日～ 平成18年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,911	13,286
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,157	1,750
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40,099	△20,596
現金及び現金同等物に係る換算差額	147	277
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△5,882	△5,281
現金及び現金同等物の期首残高	22,965	28,247
現金及び現金同等物の期末残高	17,082	22,965

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT | 連結損益計算書

- ・販売費及び一般管理費は商品送達費、人件費、減価償却費の項目を中心に前期比較で89億1百万円の削減が図られています。
- ・特別利益では物流の構造改革に伴う物流施設の売却等により固定資産売却益として153億3千4百万円を計上しています。
- ・特別損失では(株)三越、(株)三越不動産、(株)二幸等の減損損失として153億9千3百万円を計上しています。

単体決算の状況

● 貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成19年2月28日現在	平成18年2月28日現在
資産の部		
流動資産	93,400	106,164
固定資産	413,773	423,374
有形固定資産	302,969	308,792
無形固定資産	26,929	26,967
投資その他の資産	83,874	87,615
資産合計	507,173	529,539
負債の部		
流動負債	214,404	225,727
固定負債	189,749	196,922
負債合計	404,153	422,650
資本の部		
資本金	—	37,404
資本剰余金	—	41,525
利益剰余金	—	26,454
其他有価証券評価差額金	—	1,877
自己株式	—	△373
資本合計	—	106,889
負債・資本合計	—	529,539
純資産の部		
株主資本	101,779	—
資本金	37,404	—
資本剰余金	41,558	—
利益剰余金	23,304	—
自己株式	△488	—
評価・換算差額等	1,214	—
新株予約権	25	—
純資産合計	103,019	—
負債純資産合計	507,173	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成18年3月1日～ 平成19年2月28日	平成17年3月1日～ 平成18年2月28日
売上高	747,982	787,774
売上原価	550,328	579,805
売上総利益	197,653	207,968
販売費及び一般管理費	185,264	193,664
営業利益	12,388	14,303
営業外収益	5,615	5,153
営業外費用	9,001	8,637
経常利益	9,002	10,820
特別利益	4,429	12,536
特別損失	15,086	5,972
税引前当期純利益又は当期純損失(△)	△1,654	17,383
法人税、住民税及び事業税	113	122
法人税等調整額	△95	16,852
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,671	409
前期繰越利益	—	14,748
当期未処分利益	—	15,157

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 株主資本等変動計算書(要旨) 当期(平成18年3月1日～平成19年2月28日)

(単位：百万円)

科目	株主資本								評価・換算 差額等 合計	新株 予約権	純資産 合計		
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計					
	資本金	資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 特定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計			
平成18年2月28日 残高	37,404	41,458	67	41,525	8,564	2,732	15,157	26,454	△373	105,011	1,877	—	106,889
事業年度中の変動額													
平成18年5月23日開催の定時 株主総会決議による特定資産 圧縮積立金の取崩						△382	382	—	—	—			—
その他の事由による特定資産 圧縮積立金の取崩						△1,855	1,855	—	—	—			—
剰余金の配当							△1,478	△1,478		△1,478			△1,478
当期純損失							△1,671	△1,671		△1,671			△1,671
自己株式の取得									△116	△116			△116
自己株式の処分			33	33					1	34			34
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)											△662	25	△637
事業年度中の変動額合計	—	—	33	33	—	△2,238	△911	△3,150	△115	△3,232	△662	25	△3,869
平成19年2月28日 残高	37,404	41,458	100	41,558	8,564	494	14,245	23,304	△488	101,779	1,214	25	103,019

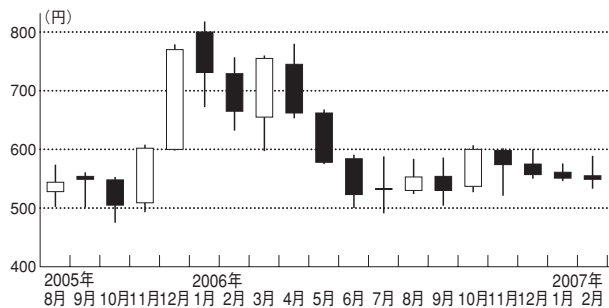
※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

商号	株式会社 三越
事業内容	百貨店業
本店所在地	東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号
創業	延宝元年(1673年)
会社設立	平成15年9月1日 (旧株式会社三越は明治37年(1904年)12月6日設立)
資本金	37,404,066,207円
従業員数	6,714名(男性 3,717名 女性 2,997名)

役員

代表取締役社長	石塚 邦雄	取締役	佐藤 文夫
取締役専務執行役員	谷北 陽一	取締役	北山 禎介
取締役専務執行役員	天野 公平	取締役	見城 美枝子
取締役上席執行役員	重松 健	常勤監査役	阿部 健一
取締役上席執行役員	松村 茂	常勤監査役	竹並 紘司
取締役	山本多加志	監査役	佐成 豊彦
取締役	小野 俊一	監査役	河村 綱也

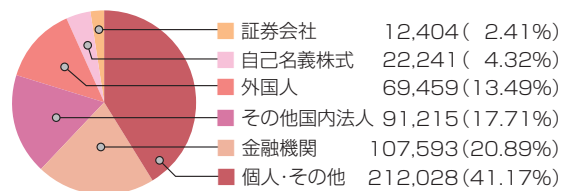
株価の推移(月足)



発行可能株式総数	1,000,000,000 株
発行済株式の総数	515,022,356 株
株主数	82,809 名
大株主	

株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
財団法人三越厚生事業団	40,199	8.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	23,328	4.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,438	2.55
株式会社大塚家具	11,700	2.40
三井生命保険株式会社	11,195	2.29
三越従業員持株会	8,655	1.77
三越愛護会	8,366	1.71
ジェービー モルガン チェース バンク 380084	7,309	1.49
株式会社三井住友銀行	7,000	1.43
日本生命保険相互会社	5,533	1.13

株式分布状況(所有者別株式分布) 株式数(千株)



※自己名義株式22,241千株は株主名簿上の株式数であり、平成19年2月28日現在の実質保有残高は22,240千株です。

株主様優待制度のご案内

● 三越株主様ご優待カード

これまでの「株主お買物優待券」に替えて平成19年2月28日現在の株主さまより「三越株主様ご優待カード」を発行することになりました。

2月末日および8月31日現在1,000株以上ご所有の株主のみさまに「三越株主様ご優待カード」を発行いたします。



- 発行基準：1,000株以上……1枚
- ご利用限度額：ご利用の金額、回数に制限はございません。
- 有効期限：

対象	郵送時期	有効期限
2月末日現在の株主さま	5月上旬	翌年6月30日
8月31日現在の新規株主さま	11月上旬	翌年6月30日

- 本カードは株主さまお一人に対し1枚発行いたします。ご利用に際してはカードのご署名欄にご本人様のご署名をお願いいたします。
- ご利用は、ご本人様、ご家族さまとさせていただきます。
- 本カードはお手元に届きました日からご利用いただけます。
- 本カードは紛失されましても再発行いたしかねますので、お取扱いには充分ご注意ください。
- 本カードは他人に譲渡、売買、貸与等をされた場合は無効といたします。

● お買物のご優待

現金（三越商品券および全国百貨店共通商品券を含む）でのお買物に限り、本体価格（税抜価格）の7%のご優待割引となります。他の優待割引および三越ポイントカードとの併用はできません。

● ご利用方法

本カードをお買物代金お支払いの際にご提示ください。
本カードをご持参されない場合は、本優待割引はご利用できません。

● ご利用店舗

三越本支店・沖縄三越・全国各地の三越小型店舗・郊外型店舗・
海外店（台湾新光三越・オランダ三越は除く）

● ご優待割引除外商品

食堂、喫茶、商品券、お仕立券、ギフト券類（ビール券、全国共通図書カード等）、ギフトインデックス類、煙草、官製品、土地および住宅関連工事、荷送料、旅行代金、保険料、呉服誂工料、紳士婦人既製服工料、生鮮品（精肉、鮮魚、野菜等）、ロエベ、ルイ・ヴィトン、ティファニー、カルティエ、エルメス、ブルガリ、その他各店で指定する売場の商品

◆ご優待につきましては店舗により優待率割引除外商品、サービス等が異なるものがございますので、あらかじめご了承ください。

● ホテル宿泊のご優待

オークラホテルズ&リゾーツ（国内）、ホテルニューオータニ東京、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルに「三越株主様ご優待カード」にて、ご優待料金が宿泊いただけます。

（今回より、帝国ホテル東京・大阪は対象ホテルではなくなりました。）

【ご利用ホテル】



オークラホテルズ&リゾーツ

●東京をはじめ札幌、新潟、京都、神戸、福岡等国内17ホテルがご利用いただけます
ご予約先TEL 0120-003741



ホテルニューオータニ

●ホテルニューオータニ東京・タワーデラックスルーム
ご予約先TEL 0120-112211

●通信販売商品

通信販売事業部取扱のカatalog掲載商品も7%のご優待割引となります。ただし、店頭への電話注文およびオンラインショッピング（インターネット経由）にはご利用いただけません。

●その他のご優待

●「三越株主様ご優待カード」を会場入り口でご提示いただくことで、三越各店で開催の文化展、美術展などの有料催事を無料でご鑑賞いただけます。

（ご本人様およびご同伴者1名さま）

●日本橋三越劇場をご優待料金でご観劇いただけます。

（除外公演有り。優待公演名、料金については日本橋三越劇場へお問い合わせください）

●写真撮影・貸衣裳・理美容・クリーニング・時計修理（電池交換を除く）をご優待割引でご利用いただけます。（ご優待につきましては、店舗によって異なります。）

●ご利用方法

宿泊のお申込みは各ホテルのご予約センターにて承ります。お申込みの際、本カードのカード番号（株主さま番号）をお申出ください。尚、ホテルにより優待率、優待対象となるお部屋等が異なりますので、詳しくは各ホテルご予約センターにてご確認ください。



ヨコハマグランド インターコンチネンタルホテル

●全部屋対象 ●その他スパプラン・
お食事のご優待がございます
ご予約先TEL 045-223-2222（代表）
宿泊予約まで

株式事務手続きのご案内

■株式事務のお問い合わせ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル **0120-78-2031**

■株式の手続き用紙のご請求

当社の株式事務を取り扱っております中央三井信託銀行では、株主のみなさまの**住所変更、配当金振込指定書**などの用紙のご請求を電話およびインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

●インターネットによるご請求

ホームページアドレス

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06m.html

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご照会ください。

●電話によるご請求

受付フリーダイヤル **0120-87-2031**

（操作の方法は、音声案内に従ってください。）

ご請求できる用紙 住所変更届・名義書換請求書・単元未満株式買取請求書・配当金振込指定書

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
剰余金配当基準日	期末配当/2月末日
定時株主総会	毎年5月
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	新券1枚につき210円(税込み) (ただし、併合、満欄による場合は無料)
公告方法	電子公告により公告 (やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は日本経済新聞に掲載して行います)
証券コード	2779 (平成15年9月1日合併により8231から変更)

● 店舗のご案内

主要店舗

日本橋本店

〒103-8001
東京都中央区日本橋室町1-4-1
TEL.03-3241-3311(代表)

新宿アルコット店

〒160-8455
東京都新宿区新宿3-29-1
TEL.03-3354-1111(代表)

銀座店

〒104-8212
東京都中央区銀座4-6-16
TEL.03-3562-1111(代表)

池袋店

〒170-8439
東京都豊島区東池袋1-5-7
TEL.03-3987-1111(代表)

恵比寿店

〒150-6090
東京都渋谷区恵比寿4-20-7
TEL.03-5423-1111(代表)

多摩センター店

〒206-8543
東京都多摩市落合1-46-1
TEL.042-357-7111(代表)

武蔵村山店

〒208-0022
東京都武蔵村山市榎1-1-3
TEL.042-516-1111(代表)

千葉店

〒260-8631
千葉県千葉市中央区富士見2-6-1
TEL.043-224-3131(代表)

新潟店

〒951-8530
新潟県新潟市西堀通五番町866番地
TEL.025-227-1111(代表)

名取店

〒981-1224
宮城県名取市増田字関下460
TEL.022-383-7111(代表)

海外店 (子会社・関連会社等)

英国三越株式会社

ロンドン三越
(ショッピング・レストラン)

フランス三越株式会社

パリ三越

三越エトワール

イタリア三越株式会社

ローマ三越

ドイツ三越有限公司

デュッセルドルフ三越
フランクフルト三越
ミュンヘン三越

スペイン三越株式会社

マドリッド三越

米国三越株式会社

オーランド三越
(デイズニールド®内ショッピング・レストラン)

仙台店

〒980-8543
宮城県仙台市青葉区一番町4-8-15
TEL.022-225-7111(代表)

札幌店

〒060-8666
北海道札幌市中央区南1条西3-8
TEL.011-271-3311(代表)

名古屋栄店

〒460-8669
愛知県名古屋市中区栄3-5-1
TEL.052-252-1111(代表)

ラシック店

〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄3-6-1
TEL.052-259-6666(代表)

星ヶ丘店

〒464-8661
愛知県名古屋市中区千種区星ヶ丘五丁目14-14
TEL.052-783-1111(代表)

広島店

〒730-8545
広島県広島市中区胡町5-1
TEL.082-242-3111(代表)

高松店

〒760-8639
香川県高松市内町7-1
TEL.087-851-5151(代表)

松山店

〒790-8532
愛媛県松山市一番町3-1-1
TEL.089-945-3111(代表)

福岡店

〒810-8544
福岡県福岡市中央区天神2-1-1
TEL.092-724-3111(代表)

鹿児島店

〒892-0826
鹿児島県鹿児島市呉服町6-5
TEL.099-225-2111(代表)

新光三越百貨股份有限公司

台北南京西路店
台北駅前店
台北信義1号店
台北信義2号店
台北信義3号店
台北信義4号店
台北天母店
桃園店
新竹店
台中店
台南1号店
台南2号店
高雄多路店
花園飯店(上海)三越ショップ

三越の歴史

10

1988年

洋服製作100年記念の舞踏会を開催

三越が明治21年(1888年)に洋服をつくり始めて100年を迎えるのを記念して、3月23日、三田の三井倶楽部で鹿鳴館をほうふつとさせる舞踏会を開催しました。会場では「三越洋服百年のあゆみ展」のパネル展示やスライド上映、日本競技ダンス連盟6組12名による当時のワルツやオールドタイムダンス「ベリータ」などが披露されました。



三越のホームページもあわせてご覧ください。

<http://www.mitsukoshi.co.jp>



ショッピングサイトはもちろん、投資家向け情報などさまざまな情報をご提供している当社ホームページをぜひご覧ください。



MITSUKOSHI

株式会社 三越

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町一丁目4番1号

【お問い合わせ先】

コーポレート推進室(株主担当) TEL.03-3241-3311(代表)

